

独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしを送れる環境作りのための研究 D事例調査

在宅継続

- p.2 No.64,65 / 横田 博,幸子 (仮名) / 夫婦在宅継続
p.6 No.68 / 岡本 恵子 (仮名) / 独居在宅継続
p.10 No.66 / 田中 和子 (仮名) / 独居在宅継続
p.14 No.83 / 上野 悦子 (仮名) / 独居在宅継続
p.18 No.84 / 山之辺 美佐 (仮名) / 独居在宅継続
p.22 No.58 / 城 佳代 (仮名) / 独居在宅継続

住み替え

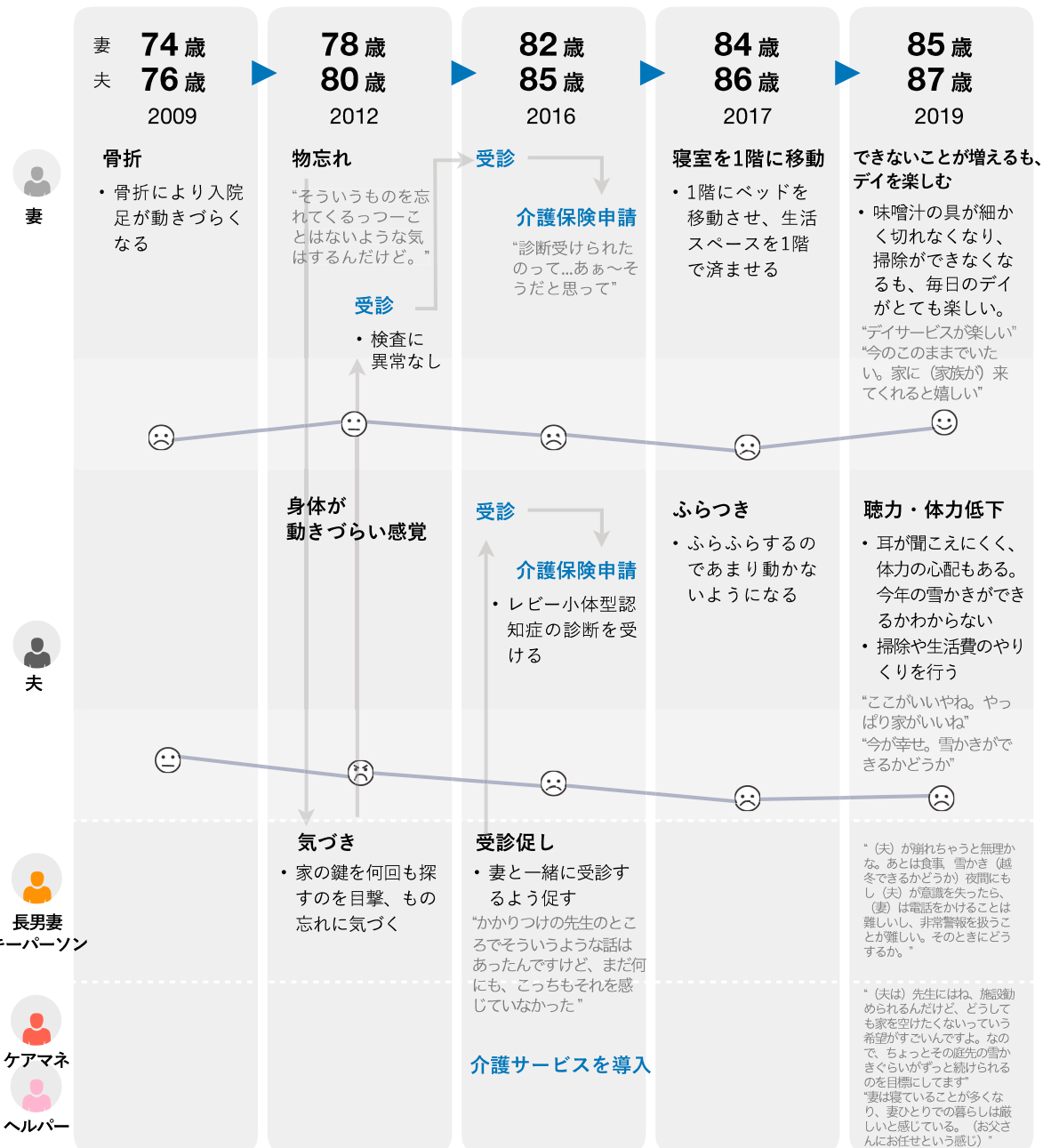
- p.26 No.75 / 駒瀬 勇夫 (仮名) / 独居住み替え
p.30 No.58 / 坂田 茂 (仮名) / 独居住み替え
p.34 No.67 / 山根 節子 (仮名) / 独居住み替え
p.38 No.66 / 和田 祥子 (仮名) / 独居住み替え
p.42 No.70 / 長田 琴子 (仮名) / 独居住み替え

1. 基礎情報

属性

	横田 幸子 (妻)	横田 博 (夫)
性別	女性	男性
職業	無職 大手電力会社・元社員	無職 大手電力会社・元社員
年齢	85歳 2019年12月時点 (1934年生)	87歳 2019年12月時点 (1932年生)
診断名	アルツハイマー型認知症	レビー小体型認知症
発症年齢	78歳	不明
診断年齢	82歳	84歳
MMSEレベル	18 /30 2018年9月時点	22 /30 2016年8月時点
長谷川式スケール	12 /30 2018年9月時点	24 /30 2019年2月時点
認知症自立度	—	—
要介護度	要介護1 2019年2月時点	要介護1 2019年2月時点
持病	—	やや難聴
居住環境	群馬県水上市	
居住地	群馬県水上市	
同居家族	夫婦	
居住形態	一軒家 (二階建て)	
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線駅から車で40分程度、公共交通機関のない地域 積雪地帯、冬は雪かきが必要 階段乗降に不安があるため、1階のみを使用 	
住まい方		
喜び	<ul style="list-style-type: none"> 自宅で暮らし続けること デイの女友達と話すこと 	<ul style="list-style-type: none"> 雪かきや掃除をして妻の安全を守ること 自宅で暮らし続けること

周囲の関わりと変化



2. 生活パターンと支援状況の変化

生活パターン

診断前 (2016年)

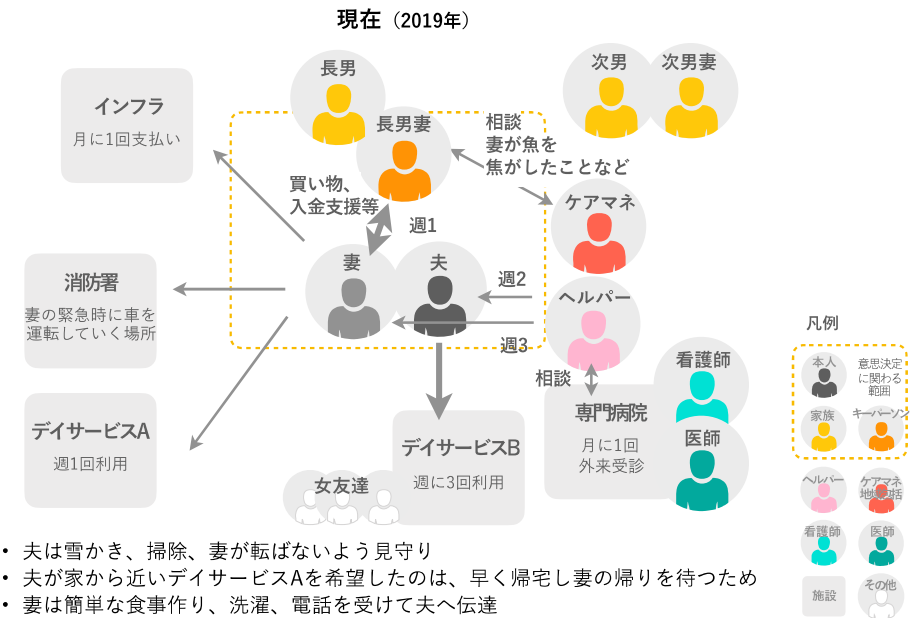
	月	火	水	木	金	土	日
朝	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食
昼	妻:買い物調理	妻:買い物調理	妻:買い物調理	妻:買い物調理	妻:買い物調理	妻:買い物調理	妻:買い物調理
夜	夫:雪かき 荷物持ち そうじ	夫:雪かき 荷物持ち そうじ	夫:雪かき 荷物持ち そうじ	夫:雪かき 荷物持ち そうじ	夫:雪かき 荷物持ち そうじ	長男妻: 買い物	夫:雪かき 荷物持ち そうじ
	二人:食事 等	二人:食事 等	二人:食事 等	二人:食事 等	二人:食事 等	二人:食事 等	二人:食事 等
	妻:夕食作り 二人:夕食	妻:夕食作り 二人:夕食	妻:夕食作り 二人:夕食	妻:夕食作り 二人:夕食	妻:夕食作り 二人:夕食	妻:夕食作り 二人:夕食	妻:夕食作り 二人:夕食
	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝

現在 (2019年)

	月	火	水	木	金	土	日
朝	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食	妻:朝食作り 二人:朝食
昼	二人:昼食	妻:デイ 入浴、昼食 夫:デイ 将棋 カラオケ	二人:昼食	妻:デイ 入浴 昼食 夫:昼食	二人:昼食	妻:デイ 入浴 昼食 長男妻: 買い物	二人:昼食
夜	ヘルパー: 夕食作り ほか調理 服薬確認	ヘルパー: 夕食作り ほか調理 服薬確認	ヘルパー: 夕食作り ほか調理 服薬確認	ヘルパー: 夕食作り ほか調理 服薬確認	二人:通院 (月1回)	二人:就寝	二人:就寝
	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝	二人:就寝

- 現在、妻は免許返納し、夫は免許を維持
- 妻の調理について、毎日味噌汁をつくる。具材の切り方はいろいろ。炊飯はスイッチを忘れることもあるが卵かけご飯をつくる
- 昼食は、デイの日を除き、長男妻が1週間分まとめ買いしたパンを食べる

支援ネットワーク



*本ページは、ケースごとに内容が異なるためタイトルを調整しています

3. 在宅継続要因

在宅継続を可能にした要因

暮らしの継続を促進するポイント

- 夫婦の互いの存在：互いにできないことを補うこと
- 夫が家を開けたくないという強い希望があること
- 夫の身体が動く限り存続
- 20年にわたる長男妻の週1回日帰り訪問。食事や日用品の買い物、お金の入出金などのきめ細かい生活維持の支援
- 妻がデイを楽しめていること

暮らしの継続を阻害するポイント

- 夫自身の身体が動かなくなること
- 夜中に夫が動けなくなってしまうと、妻が電話機までたどり着けないため、どうしようもないこと（長男妻の心配）

妻の場合

できること

- 夫のための簡単な調理
- 電話での通話
- お客さんをもてなす

できる要因

- 料理を褒めてくれる相手が居る
- 健康状態が良い

できるが周囲が心配すること

- 夫のための簡単な調理
- お客さんをもてなす

心配の要因

- ボヤがあった

できるが本人が不安なこと

- なし

不安に拍車をかける要因

手伝ってくれる人やサービス

- 夫の支援
- 夫の支援
- 夫・長男の妻の支援
- 長男の妻の支援

できないこと

- 身体が動かせない
- 掃除
- お金をおろしに行く
- 食材調達

夫の場合

できること

- 妻のための力仕事（雪かき、掃除）
- インフラへの支払/お金の管理
- 自宅前の駐車や発車時の「オーライ」

できる要因

- 妻の役に立つという意識
- これまでお金の管理をしてきた経験

できるが周囲が心配すること

- 消防署までの運転

心配の要因

- とてもじゃないが運転はできるような心身機能状態ではないのではない

できるが本人が不安なこと

- 力仕事の継続
- 身体が動くかどうか

不安に拍車をかける要因

- デイ・雪かきサービスの予約は多く使えない
- 緊急警報は扱えない

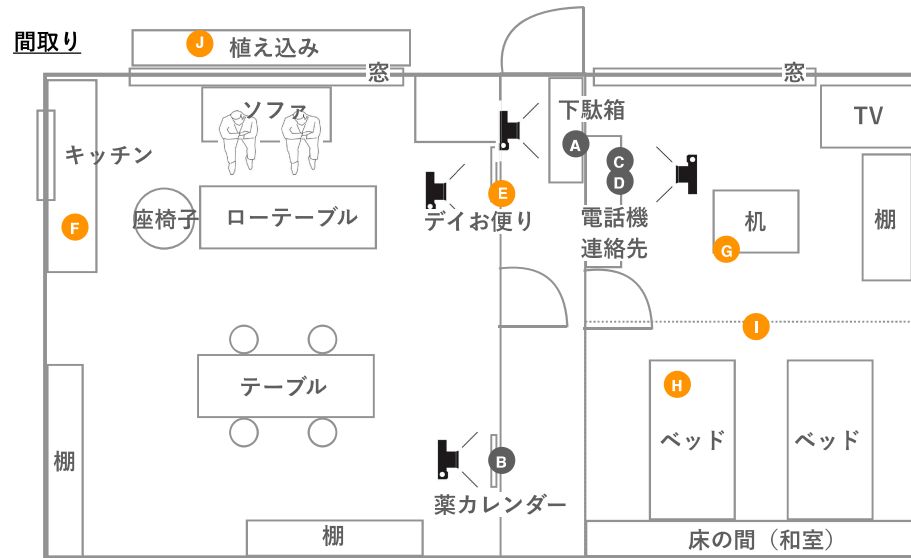
できないこと

- 人の話、電話の音が聞こえない
- 食材調達

手伝ってくれる人やサービス

- 妻による聞き取り
- 長男の妻の支援

4. 暮らしの知恵や工夫



地域・隣人

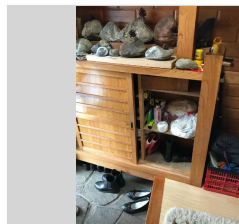
なし

冬には家の周囲は雪かきが必要なため、夫の体力が持つかどうかは在宅継続に影響している。衣服に関しては、目にはいるところにかけておき、探しやすくしている。

ツール

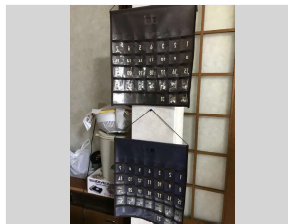
家族との電話

本人による工夫



A 鍵置き場

どこに置いたか忘れないよう靴箱の下にまとめて置く。

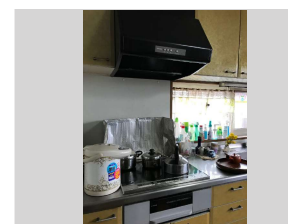


B 薬カレンダー

ヘルパーが入れない部屋にかかっていたくすりカレンダーを夫が居間に移動させる。



E デイからのお便りや写真



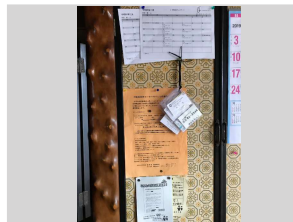
F IHのキッチン

コンロで小火を起こしたため、IHに変更。



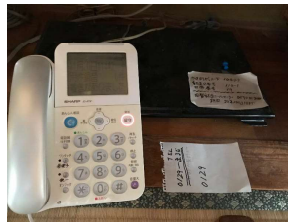
I 感謝状

鴨居に所せましと並ぶ夫の元勤務先の電力会社からの感謝状。



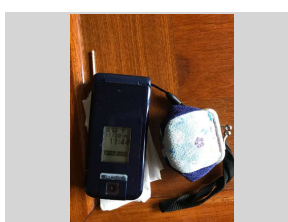
D 連絡先

電話機の横に連絡先をつるし、1か所にまとめている。

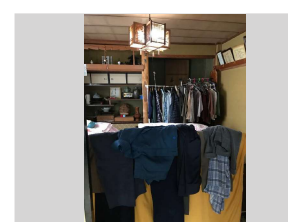


C 電話機とメモ

妻が電話に出、夫に電話の内容を伝える。大事な電話番号は家族がメモし電話機のそばに置いておく。

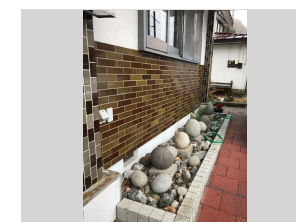


G 連絡用のガラケー



H 目に入るところにある衣服

ベッドに着る服をかけておく。



J 石の並んだ植え込み

本人以外による工夫

補足

1. 基礎情報

属性

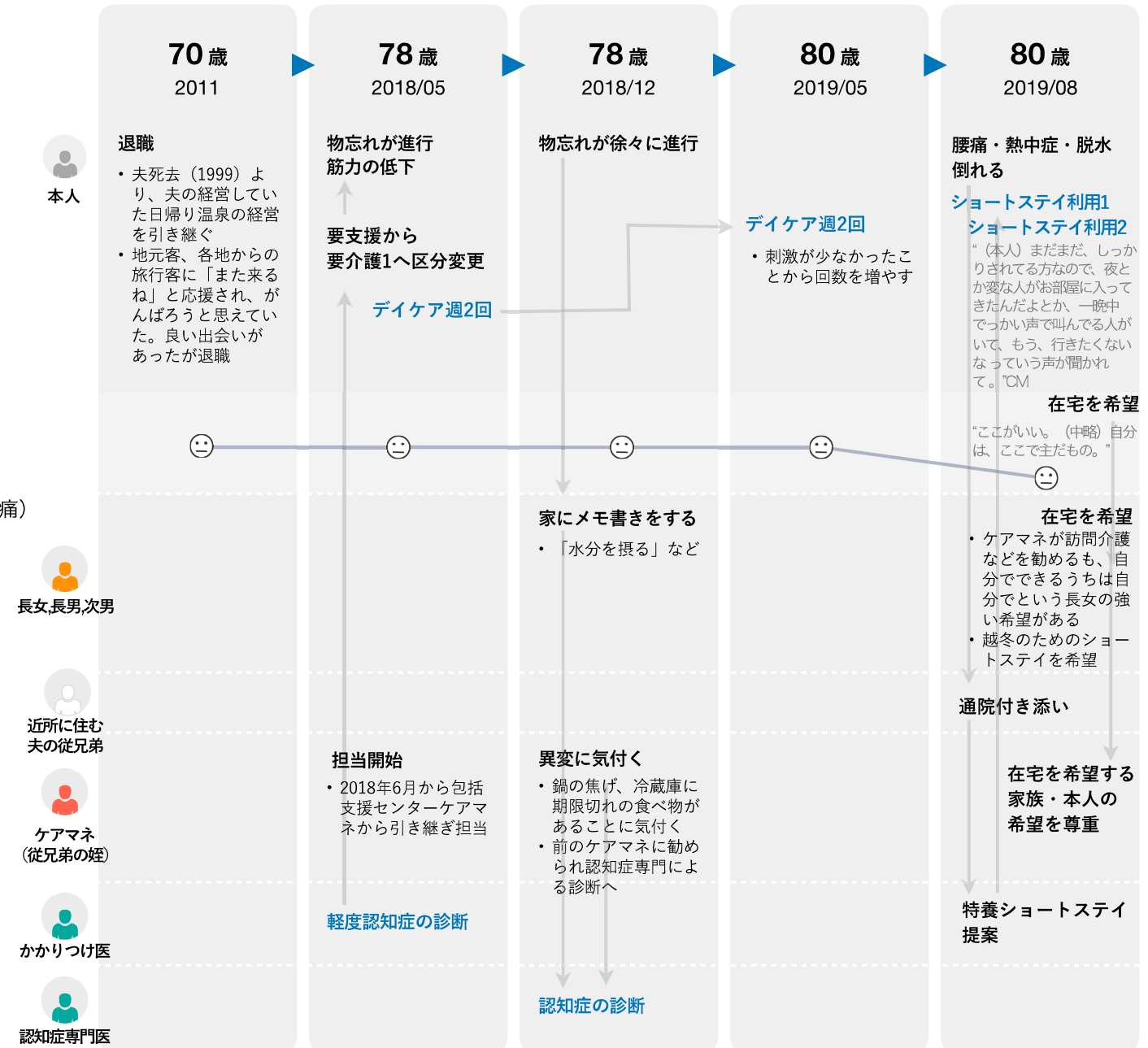
岡本 恵子

性別 女性
 職業 無職
 元日帰り温泉施設の経営
 年齢 80歳
 2019年12月時点 (1939年生)
 診断名 レビー小体型認知症
 発症年齢 77歳
 診断年齢 78歳
 MMSEレベル 22 /30
 2017年2月時点
 長谷川式スケール 一 /30
 認知症自立度 一
 要介護度 要介護1
 2018年5月時点
 持病 高血圧、骨粗しょう症（腰痛）

居住環境

居住地 群馬県片品村
 同居家族 なし
 居住形態 一軒家
 山の中腹
 地域特性
 ・ 中山間地域
 ・ 雪が降ると自宅から出ることは困難となる
 ・ 車でも昇降がやや困難な坂が自宅前にある
 住まい方
 ・ 家から出るときつい坂があるため夏はセニアカーを利用、冬は使えない
 喜び
 ・ 一番はリハビリ
 ・ 人と話をすること
 ・ 子供たちが温泉へ連れて行ってくれること
 ・ 近所の90代の友人と付き合うこと

周囲の関わりと変化



2. 生活パターンと支援状況

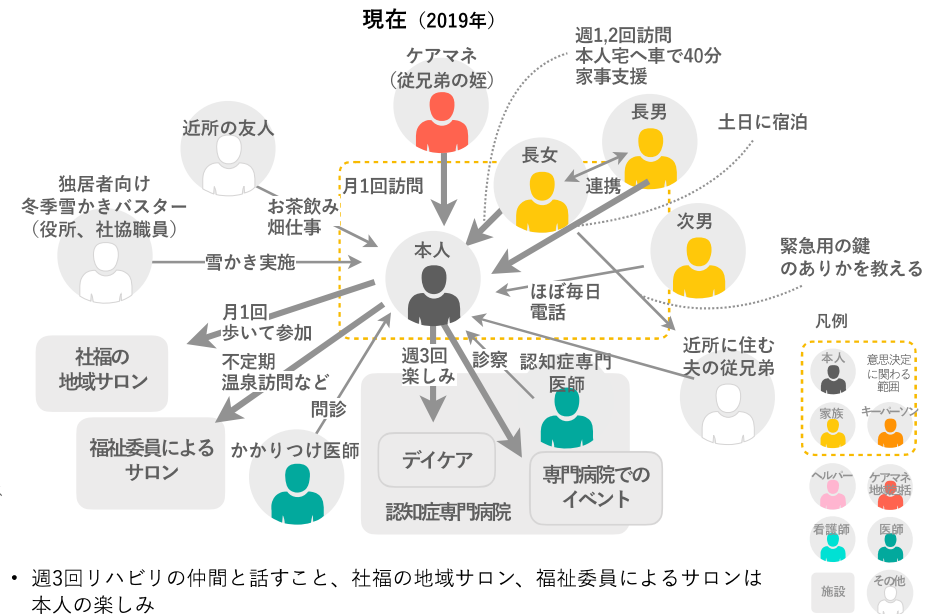
生活パターンの変化

現在 (2019年)

	月	火	水	木	金	土	日
朝	料理 食事 掃除 洗濯	料理 食事 掃除 洗濯	料理 食事 掃除 洗濯	料理 食事 掃除 洗濯	料理 食事 掃除 洗濯	料理 食事 掃除 洗濯	長男宿泊
昼	デイケア	長女:訪問 買い物 掃除 洗濯 服薬管理	畑仕事 近所との 交流 温泉	デイケア	長女:訪問 買い物 掃除 洗濯 服薬管理	デイケア	畑仕事 近所との 交流 温泉
夜	料理 食事 掃除 洗濯	料理 食事 掃除 洗濯	料理 食事 掃除 洗濯	料理 食事 掃除 洗濯	料理 食事 掃除 洗濯	長男宿泊	畑仕事 近所との 交流 温泉

- 在宅時は、鍋を焦がしたりはするものの料理、掃除、洗濯、食事など一人で行う（買い物は一人ではいけない）。そのほか、セニアカーを夏中レンタルし、畑仕事、近所とのお茶のみ、近場の温泉を訪れたりしている。
- 長女訪問の曜日は週によって違うが、週1、2回訪問している。
- 長男は、来られるときは週末にかけて宿泊。
- 次男がほぼ毎日電話をし、安否確認
- 左に加え、月1回の社協開催サロン、認知症専門病院開催イベント、福祉委員開催サロンなどに足を運ぶ

支援ネットワーク



- 週3回ハビリの仲間と話すこと、社福の地域サロン、福祉委員によるサロンは本人の楽しみ

*本ページは、ケースごとに内容が異なるためタイトルを調整しています

3. 在宅継続要因

在宅継続を可能にした要因

暮らしの継続を促進するポイント

- ・ 自分のことは自分でしようとする意識
- ・ デイケアやサロン、ご近所など定期的な人との交流
- ・ 畑仕事などで身体を動かすこと、家族や近所の人が料理を持参したり、本人が昔経営していた馴染みの温泉へ連れ出すこと（本人の喜び）

暮らしの継続を阻害するポイント

- ・ めまい、脱水、腰痛などの身体機能低下
- ・ 食事や水分が自分で取れなくなる（長女は現状訪問介護導入に抵抗あり）

できること

- ・ 歩くこと
- ・ セニアカーを運転すること
- ・ 料理を作ること（炊飯、煮物）
- ・ 着替え
- ・ 掃除（掃き掃除）・洗濯・洗濯干し
- ・ 電話をかけること
- ・ 血糖値が安定する暮らし

できる要因

- ・ 鍵類は玄関に統一して置いておく（長女の工夫）

できるが周囲が心配すること

- ・ 料理（ケアマネの不安）
- ・ 季節に適した服を選ぶこと
- ・ 家の換気

心配の要因

- ・ 鍋を焦がす、冷凍したご飯をレンジで調理後取り出し忘れる、火の始末
- ・ 夏や冬の体温管理（夏に洋服を着込むなどの体温調節に適切な洋服選び）
- ・ エアコン無期中、換気せず脱水やめまいを起こしたことがある

できるが本人が不安なこと

- ・ 息苦しさ（心臓病歴あり）
- ・ 腰の激痛で動けなくなる不安（過去2回経験）
- ・ 栄養・水分補給（脱水で倒れたことがある）
- ・ 畑仕事でクマに襲われること

不安に拍車をかける要因

- ・ 畑でクマを見かけた（本人談）

できないこと

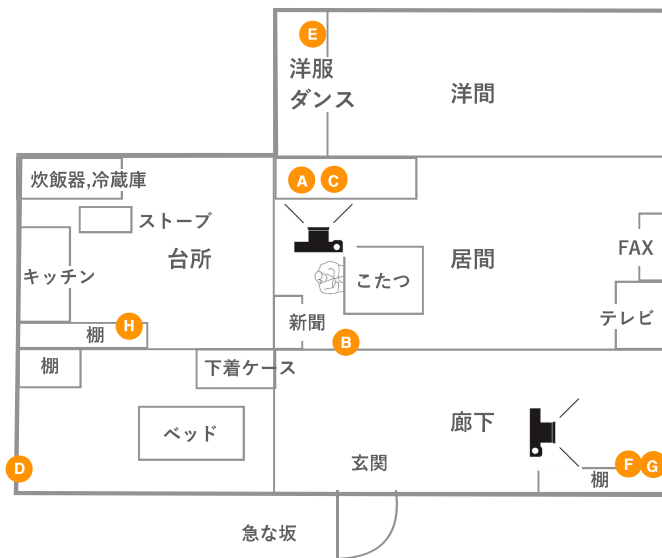
- ・ 掃除（雑巾掛け、腰の痛みから）
- ・ 買い物

手伝ってくれる人やサービス

- ・ 長女が訪問時掃除
- ・ 長女が訪問時買い物

4. 暮らしの知恵や工夫

間取り



地域・隣人

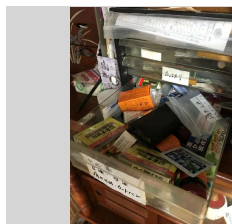
- Ⓕ 長女(週1,2回訪問)
長男(週末宿泊)

自宅は中山間地域に位置しているため、雪が降ると外出ができず、雪解け頃はセニアカーを借りて運転する。自宅で困ることはない。畑仕事をしたり、リハビリのデイサービスに行ったりするとき人と話すことが楽しみ。長女・息子も自身が経営していた温泉へ連れ出してくれる。新聞で日付を確認している。

ツール

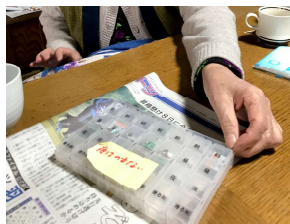
- Ⓖ 新聞(日付確認)
- Ⓖ 携帯電話(家族から)

本人以外による工夫



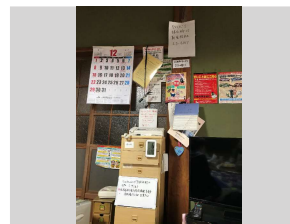
Ⓐ 市販薬ケース

引き出しごとにラベルが貼ってある。



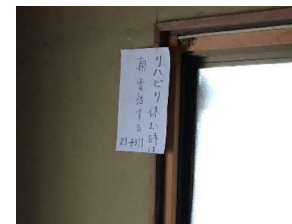
Ⓑ 薬ケースへの張り紙

「夜はのまない」というメモが貼られている。



Ⓒ カレンダーとホワイトボード

デイケアの予定が書きこまれたカレンダー。ホワイトボードには予定が書きこまれている。



Ⓓ リハビリの注意書き

デイを休む時には、電話するように、番号が書いてある。

補足



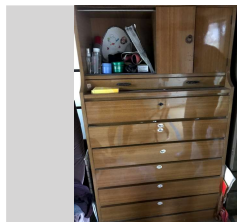
家の前の急な坂

夏はセニアカーで移動



焦げた豆の入った鍋

調理中焦がしてしまうこともあるが、お湯をかけたらふやけて美味しいと思ってあまり気にしていない。(長女は家事の心配をしている)



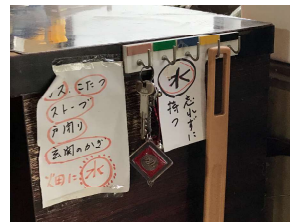
Ⓔ たんす

引き出しごとにラベルが貼ってある。



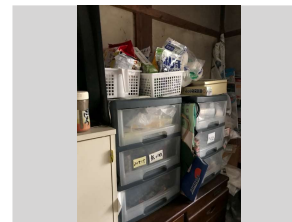
Ⓕ 家の中のメモ

目に留まる位置にメモを書いておくが、最近はメモを認識しないようになってきている。



Ⓖ 鍵置き場の統一

家の鍵がかかっている、外からデイケアの迎えが入れるように長女が玄関先に鍵を隠しており、スタッフに伝えている。



Ⓖ ラベル付きケース

薬、食材などラベルが引き出しについている。



以前経営していた温泉

1. 基礎情報

属性

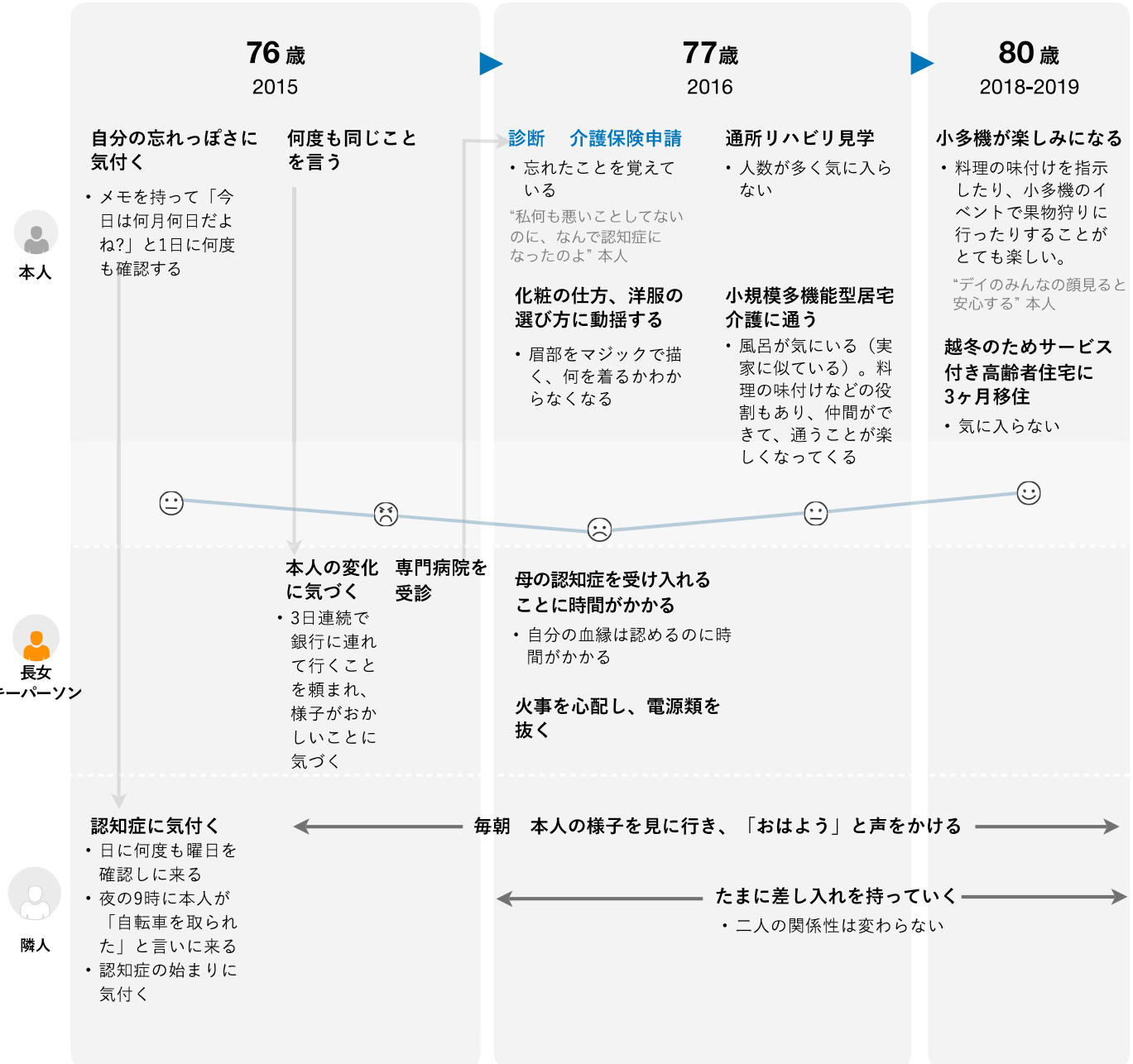
田中 和子

性別 女性
 職業 無職
兄弟が経営する旅館に勤務
 年齢 80歳
2019年12月現在 (1939年生)
 診断名 レビー小体型認知症
 発症年齢 76歳
 診断年齢 77歳
 MMSEレベル 18 /30
2018年5月時点
 長谷川式スケール 15 /30
2018年5月時点
 認知症自立度 —
 要介護度 要介護1
2019年12月時点
 持病 —

居住環境

居住地 群馬県新治村
 同居家族 なし
 居住形態 自宅
・積雪地帯、新幹線駅から車で40分程度
 ・認知症専門病院に徒歩5分
 住まい方
・2階建て一軒家の1階
 喜び
・小規模多機能型居宅介護で食事作りを任されたり、みんなの顔を見れたりすること
 ・働いていてよかった、楽しかったと思う

周囲の関わりと変化



2. 生活パターンと支援状況

生活パターン

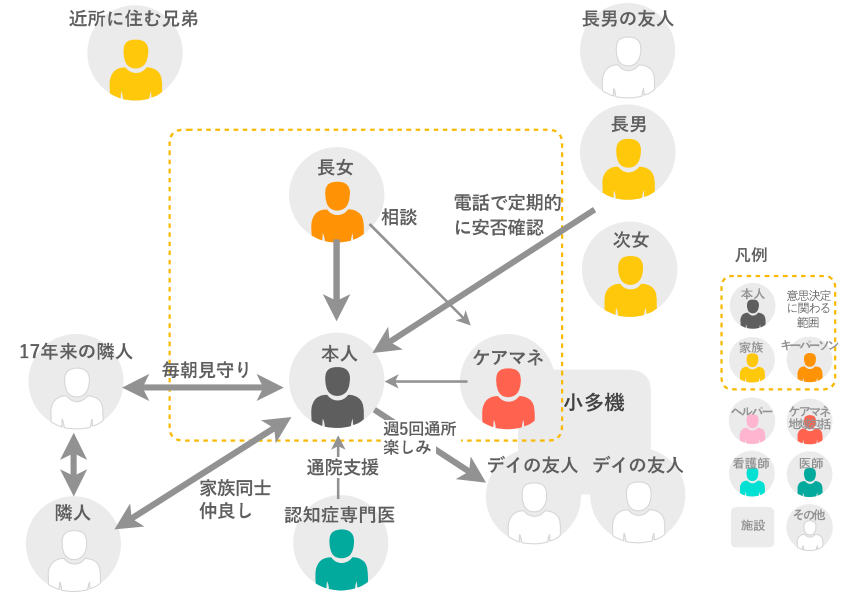
現在 (2019年)



- ・小多機のデイサービスでは、食事づくり・配膳下膳、入浴、体操、レクリエーション、散歩等を行う
- ・訪問介護は、小多機による居宅訪問（食事確認、洗濯の声かけ、冷蔵庫内食品確認）
- ・毎夕、長女が訪問。長女が訪問できない場合は隣人が訪問（食事確認、洗濯の声かけ、食品確認、服薬確認、映画鑑賞など）

支援ネットワーク

現在 (2019年)



- ・近所に住む兄弟は、認知症を認めていない。財布を忘れた、自転車がなくなったこと自体が許せない状況
- ・長男の友人からは「若い頃散々お世話になった」と本人に掃除機をプレゼントされた
- ・17年来の隣人は毎朝、本人の様子を見に行き「おはよう」と声をかける、たまに差し入れを持参、認知症を特別だと思わない
- ・夫も含め家族同士で仲が良い隣人は、以前、毎朝のウォーキングをしていたが最近では実施していない
- ・認知症専門医からは、病院のイベントで裁縫の先生になってもらえないかと依頼された

*本ページは、ケースごとに内容が異なるためタイトルを調整しています

3. 在宅継続要因

在宅継続を可能にしている要因

暮らしの継続を促進するポイント

- ・ 家族と隣人、小規模多機能の通所デイサービスの生活のリズムが整っていること・できることを延伸させる意識
- ・ 家族や隣人が家の工夫を楽しめていること
- ・ “誰かが係じゃなくて、みんなが係だから” 長女 気づいた人がやる
- ・ 長女が自分のキャパシティを超えたとき（辛いと体感した時）は、すぐ施設の泊まりを利用する
- ・ 長女は本人の嫌なことはしないと決めている

暮らしの継続を阻害するポイント

- ・ 本人の心身機能低下
- ・ 本人の意思の変化 “周りに迷惑がかかるなら施設に入ってもいいよ” 本人

できること

- ・ 料理をレンジで温める
- ・ 洋服選び・着替え
- ・ 洗濯をかける・干す・畳む
- ・ 化粧（デイサービスの日）
- ・ 電話に出る
- ・ ドラマのストーリーを楽しむ

できる要因

- ・ 身体が動く
- ・ 気づいた人が掃除や洗濯を本人に促す、洗剤がなくなりそう、と黒板で伝言
- ・ 週5のデイを楽しめている
- ・ 家族や隣人の日々の関わり

できるが周囲が心配すること

- ・ 調理や家事
- ・ 自宅から1人で出ていく

心配の要因

- ・ 鍋を焦がす、家電を壊す
- ・ 行方不明になるリスクがある

できるが本人が不安なこと

- ・ 一人で出かけること

不安に拍車をかける要因

- ・ 体力的に一人で出かけないので徘徊もないが、もし出歩くことがあれば施設に入るよう病院の先生に言われるように思う

(一人で) できないこと

- ・ お金の管理
- ・ 買い物（支払いに億劫）
- ・ 料理（調理の工程に億劫／パンをガスで焼くなど、何をどうするかかわかりづらくなる）
- ・ 洗濯が終わった音に気づくこと
- ・ 掃除機（3分ほどで疲れる）

手伝ってくれる人やサービス

- ・ 長女が管理する
- ・ 長女と一緒に買い物に行く
- ・ 長女の買い出し、隣人が差し入れ、小規模多機能の宅食サービスを利用している
- ・ 洗濯が終わる音を訪問した長女がきき、干すことを本人を促す

4. 暮らしの知恵や工夫

間取り



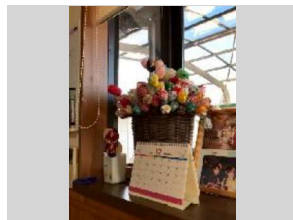
地域・隣人

F 長女の訪問 (毎日)

生活スペース内の移動に不自由がないよう、家族が配置を変えたり家具を移動させたり工夫している。

G 隣人の見守り (毎日)

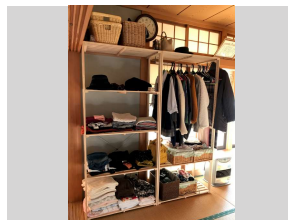
本人以外よる工夫



A 本人の手作りの品



B ホワイトボード
長女と隣人の連絡用
長女が訪問できない時はその旨を黒板に書く

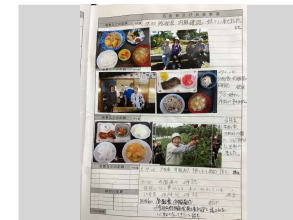


C プティックのような洋服収納
明日何を着ようか不安に思ったり、重なっていると何がどこにあるかわかり辛くなったため、長女が目に見て選べる収納に変更

補足



本人の手作りの品
仕事で得意だった裁縫で仕上げた作品を絵画のようにして壁に飾っている



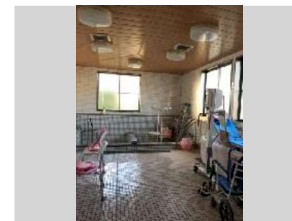
小多機のノート
デイのイベントを含め、楽しかった1日を日誌に残している。家族は本人の日中の様子がわかり、安心につながっている



D 明るい場所に移動したベッド
奥の寒い部屋から、陽が当たる縁側に続く部屋にベッドを移動し、快適な部屋づくりを考案する



E 隣人の気配り
毎日本人がどうしているかと心にかける、認知症の診断の前から友人同士で関係は変わらない



小多機の風呂場
自宅の風呂と似ているとことで、本人がデイの見学時に気に入ったポイント

1. 基礎情報

属性

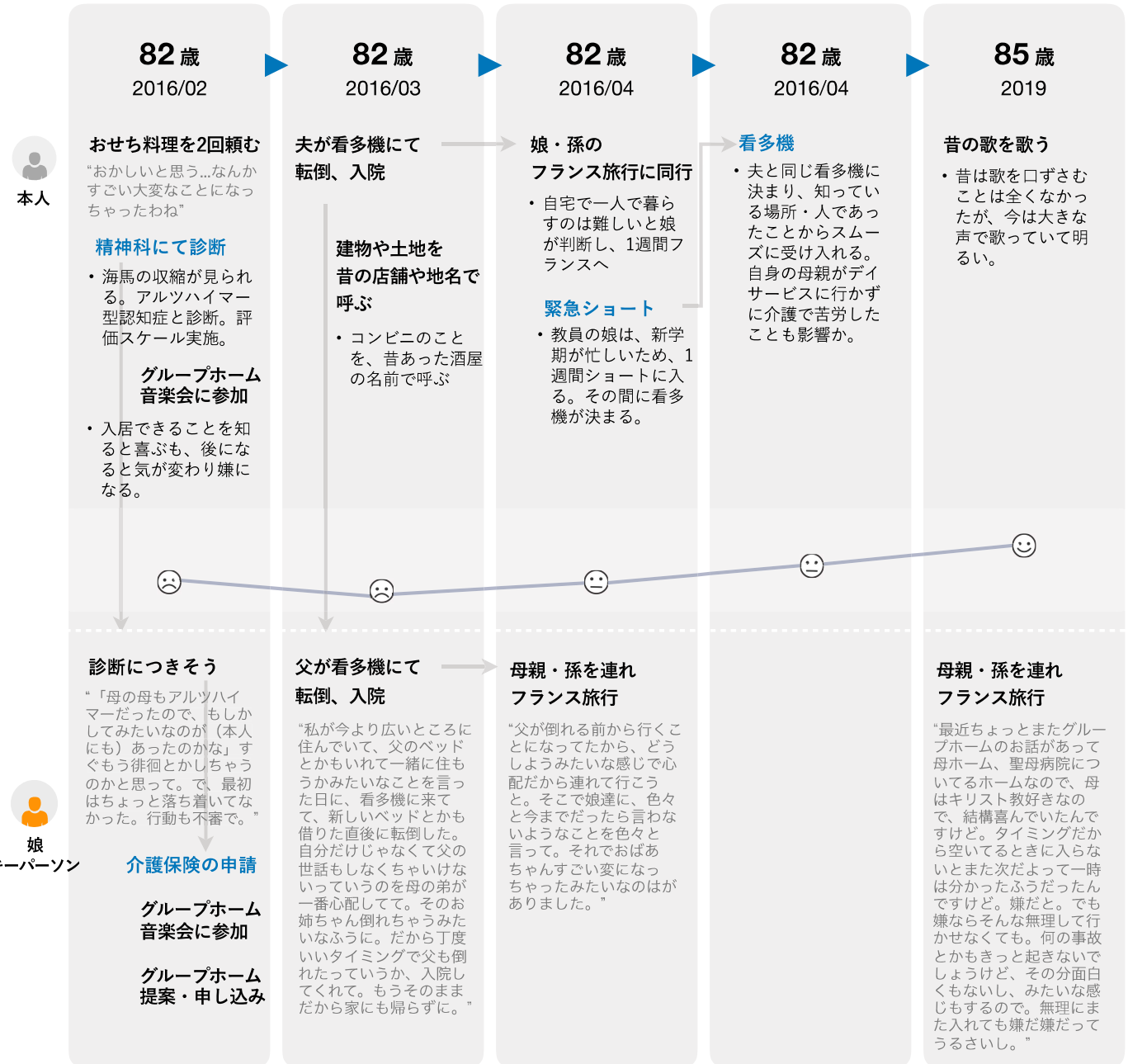
上野 悦子

性別 女性
 職業 主婦
 元秘書（短期間）
 年齢 85 歳
 2019年12月時点 (1934年生)
 診断名 アルツハイマー型認知症
 発症年齢 一 歳
 診断年齢 82 歳
 MMSEレベル 一 /30
 2019年2月時点
 長谷川式スケール 一 /30
 認知症自立度 一
 要介護度 一
 持病 一

居住環境

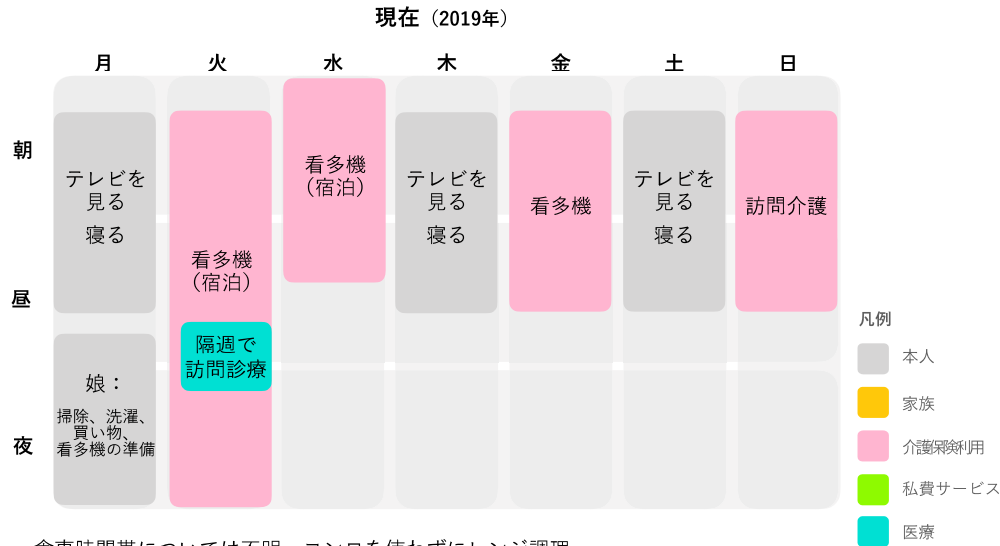
居住地 東京都新宿区
 同居家族 なし
 居住形態 アパート
 エレベーターなし4階
 地域特性
 ・地域のとの交流はない。
 運よく外で倒れば誰か
 が見つけてくれるかもしれ
 ない…くらの距離感
 住まい方
 ・40年以上住んでいる
 ・4階から階段を降りてこ
 ない日もある
 ・同アパート1階に2歳年下
 の弟夫妻が住んでいるが
 あまり交流はない
 喜び
 ・日本文学・英語・フラン
 ス語にまつわる文化芸術
 ・人との心の通じ合い、映
 画行ってきたの！とかお
 いしいね！とか嬉しい・
 悲しいことを共有できる
 こと

周囲の関わりと変化



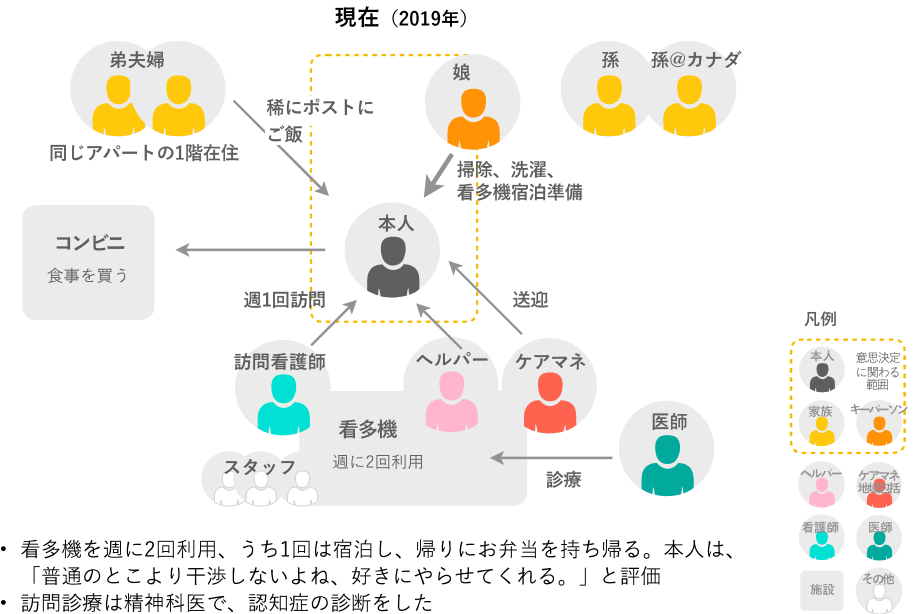
2. 生活パターンと支援状況

生活パターン



- ・ 食事時間帯については不明、コンロを使わずにレンジ調理
- ・ 夜の睡眠時間については不明

支援ネットワーク



- ・ 看多機を週に2回利用、うち1回は宿泊し、帰りにお弁当を持ち帰る。本人は、「普通のところより干渉しないよね、好きにやらせてくれる。」と評価
- ・ 訪問診療は精神科医で、認知症の診断をした

*本ページは、ケースごとに内容が異なるためタイトルを調整しています

3. 在宅継続要因と住み替えに関するキーパーソンの考え

在宅継続を可能にした要因

暮らしの継続を促進するポイント

- ・ 本人の自宅継続の強い意志と娘と看多機の継続的なサポート（娘としては、父のように骨折するなど、何か起きて住み替えることを期待をしている）

暮らしの継続を阻害するポイント

- ・ エレベーターのないアパート4階への昇降
- ・ お金の管理など、現状できる（と思っている）ことへの介入を好まれないこと

できること

- ・ 楽しく歌う
- ・ ゴミ捨て
- ・ ハート付きのメールを送る（ガラケー）
- ・ 雑誌・本を読む
- ・ 家族と旅行
- ・ 手紙を書く（英文でも書ける）
- ・ 食事準備（レンジ調理、買い出し）
- ・ 散歩

できる要因

- ・ 娘や同級生とメールを送れる関係性にある
- ・ 文学などの趣味、作家への憧れ
- ・ 娘家族との関係性がある
- ・ 海外在住の経験
- ・ 習慣、コンロを使わないように娘が張り紙
- ・ 徘徊した場合の対応を娘が警察にし、服や靴へくまなく記名

できるが周囲が心配すること

- ・ 自宅アパートの階段を4階まで上がること
- ・ お金の管理
- ・ 一人で住み続けること
- ・ 食事の準備（レンジ、買い出し）

心配の要因

- ・ エレベーターが取り付けられていないため、いつまで登りきれるか
- ・ 「立ち入らないで」と言われたが実際管理できているか不安

できるが本人が不安なこと

- ・ 服薬（カレンダーにて備忘）
- ・ 付き合っている人のことを忘れるのではないか

不安に拍車をかける要因

できないこと

- ・ 看多機への宿泊準備
- ・ 洗濯
- ・ 掃除
- ・ タオルの交換

手伝ってくれる人やサービス

- ・ 娘（本人が変なこと言うといラッしたり、本人が気を遣いすぎてしまうので、簡単には同居しない、あてにされても困る）
- ・ 看多機
- ・ 弟夫婦（同アパート1階に在住、密接ではないがいざとなったら助けてくれるだろう）
- ・ （警察：まだお世話になったわけではないが娘が徘徊時の対応を問い合わせた）

住み替えに関する本人とキーパーソンの考え

本人はグループホームに、いつでも簡単に入れると思っている

“今すぐ近くだったら空いてるから今入らなくちゃダメだよって言ったからで、遠く（にあるグループホーム）ならいつでも簡単に入れると思っているところが困るんですけど。” 娘

“家族としては遠いと凄くめんどくさい。ハッキリ言ってめんどくさい。大変なのでそれは困るな、と。” 娘

本人の意思が汲み取れない

“もっと悪くなって頻繁にサービスが入るようになって、ずっと一人なのが本当に母が望んでることなのかっていうのが（わからない）。” 娘

“意思が汲み取るのが難しく、そのだから、変に気を遣わないでって言いたいんだけど、それが。そうすると気遣いすぎて何が本心が分かんなくなって、何してあげていいかもよく分かんなくなっちゃうみたい。” 娘

グループホームに入りたくないことを娘以外に複数伝えた（騒いだ）ため、娘が引いた

“でもどこかある時点で施設に入った方が、グループホームみたいなのに入った方が良のこなっていうのもちょっと考えて。でも一時その話も進めたんですけど、私には嫌だって言わなかったんですけど、あっちこっちで嫌だ嫌だって騒いだので。近くのグループホームに入れそうな可能性があったんですけども。” 娘

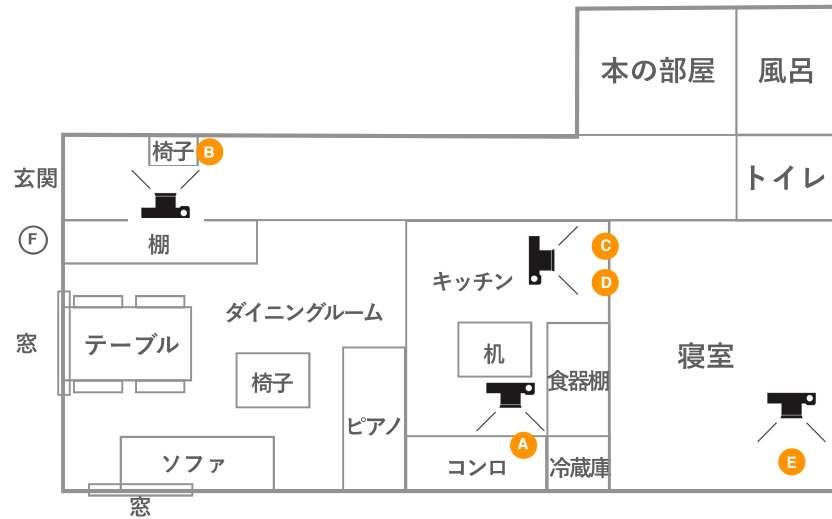
“無理にまた入れても嫌だ嫌だってうるさいし。でお金もかかることだし、なんか馬鹿らしいなって気もして。” 娘

具体的なきっかけ（後押し）がない

“父みたいに、何か起きる。転んじやうとか、ちょっとしたことで転んじやえば歩けないですし。今入れ歯がちょっと具合悪くだけで、硬いもの食べれなくなって一緒にご飯とか食べに行けなくなっちゃうし。そういうちょっとしたことで、ちょっとした病気で何でも、何か外的要因があるのが期待してっていうとあれだけど。その火事とかじゃ困るんですけど、そうじゃないところで。” 娘

4. 暮らしの知恵や工夫

間取り



地域・隣人

Ⓕ 鍵

ベルギー在住時、素敵な暮らしをする人のうちに呼ばれた影響でアート、食器、テーブルセッティングに影響を受けている。他にも、父が好きだったぬいぐるみが残る。作家である森茉莉の作品など、様々な趣味が垣間見られる。

ツール

Ⓖ メール

Ⓖ 服や靴への記名

本人以外による工夫



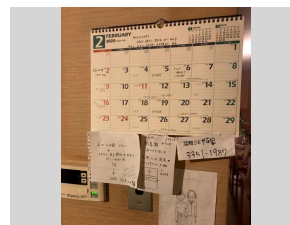
Ⓐ 「故障中」の貼り紙

“火事が怖いのでガスは危ないから使わないでねとか言って「故障中」とかいうの貼ったら信じたらしくて、今は使っていない”



Ⓑ 玄関に持ち物を置いておく

“最近、ミモザに持っていくパジャマとか持ってくものを玄関に置いて、「ミモザに持っていく、動かさないでね」というのを置いておいてます”



Ⓒ カレンダー

“（同じこと）3回くらい聞かれてイラっとするんでカレンダーに何でも書いてました。”

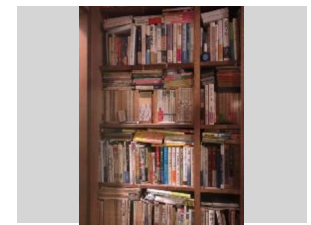
補足



ダイニングルーム



キッチン



本の部屋



Ⓓ お薬カレンダー



Ⓔ 貼り紙

Ⓕ 鍵

“メーターボックスに鍵は一応隠してあって、母がないと言ったら渡せるよう（母の）弟にも伝えてあるんです。”娘

Ⓖ メール

“私だけでなく他の何人かは。昔はちょっと若い友達とかいてやって。”娘

Ⓖ 服や靴への記名

“警察の人とかも写真とか持ってきてくれれば回せるし、あと（略）靴とか全部見るからどっかに分かるところに書いておいてくれればいいとか色々教えてもらった。”娘

1. 基礎情報

属性

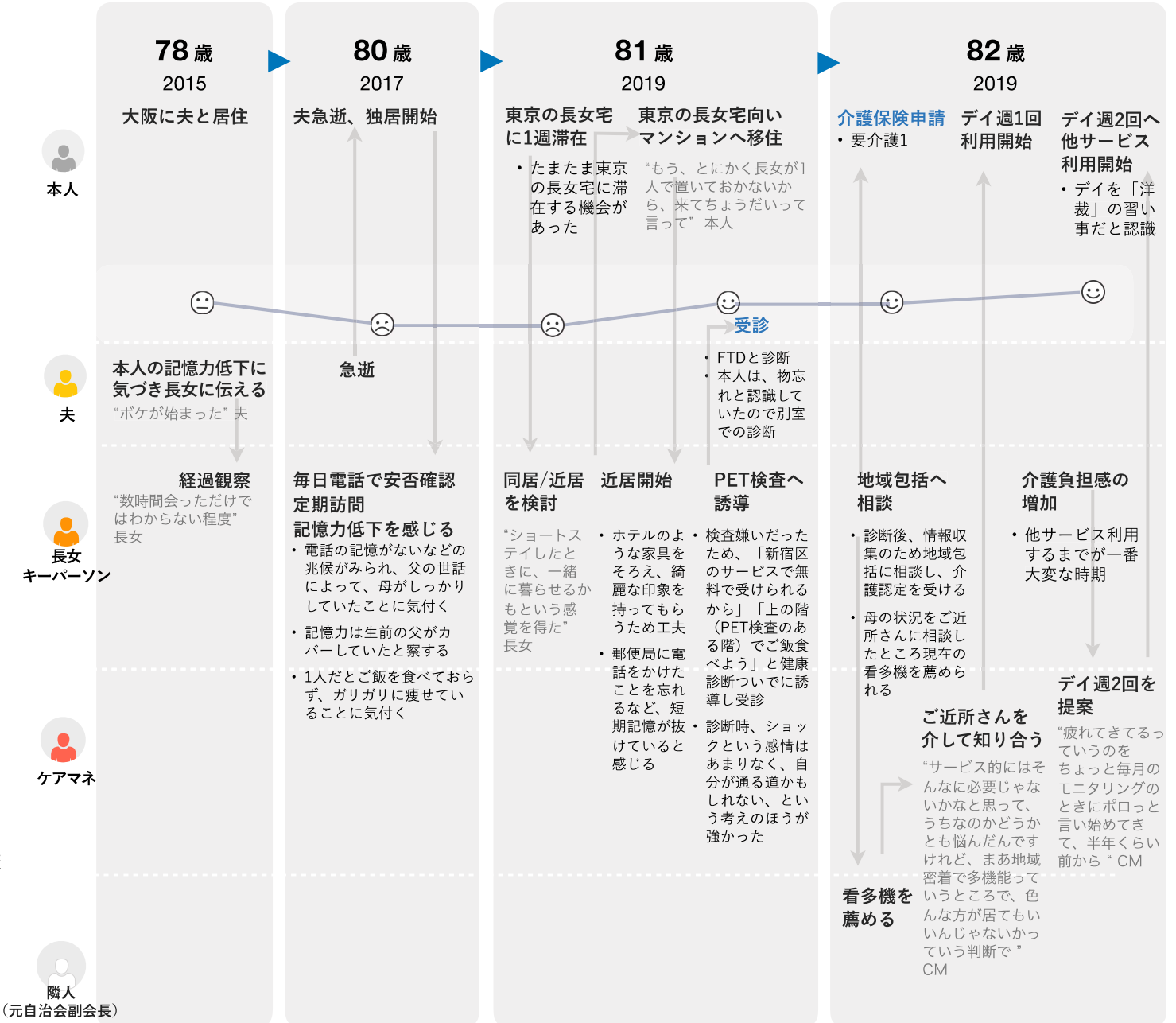
山之辺 美佐

性別 女性
 職業 生命保険会社
 事務職（結婚前）
 年齢 82歳
 2019年12月時点（1937年生）
 診断名 前頭側頭型認知症
 発症年齢 78歳
 診断年齢 81歳
 MMSEレベル 一/30
 長谷川式スケール 一/30
 認知症自立度 一
 要介護度 要介護1
 2019年1月時点
 持病 一

居住環境

居住地 東京都新宿区
 ← 京都
 同居家族 なし
 居住形態 マンション
 地域特性
 ・ 最寄り駅から徒歩10分
 ・ 下町風情が残る地域
 ・ 自治会・祭事も盛ん
 住まい方
 ・ 玄関から一番近い居室に居住
 喜び
 ・ 孫に会うこと、孫の学校の
 手伝い、洋裁

周囲の関わりと変化



2. 生活パターンと支援状況の変化

生活パターンの変化

東京移住後（介護サービス利用後/直後）

	月	火	水	木	金	土	日
朝	朝食準備	朝食準備	朝食準備	朝食準備	朝食準備	朝食準備	朝食準備
昼	長女と外出	長女と外出	送迎 デイサービス	在宅	孫のインターナショナルスクール手伝い	在宅	在宅
夜	銭湯 夕食準備 掃除	銭湯 夕食準備 掃除	送迎 夕食準備 掃除	銭湯 夕食準備 掃除	銭湯 夕食準備 掃除	銭湯 夕食準備 掃除	銭湯 夕食準備 掃除

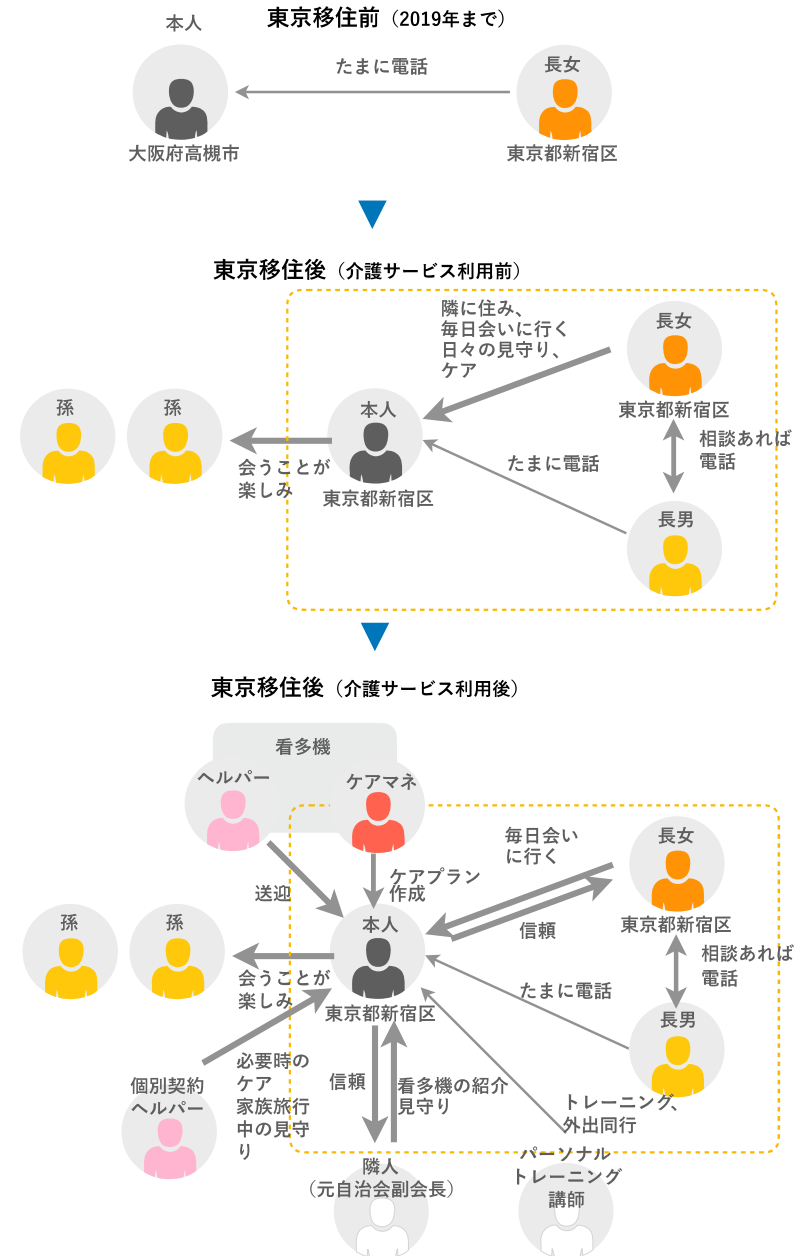
- ・ 本人のADL支援は、デイサービスでの入浴、ご家族による食事準備、私費サービスヘルパーによる掃除が行われ、他は本人一人で行える
- ・ 料理は、本人の意欲がないことと火の始末の心配もあり、パンを焼く程度の簡単調理のみ行う

東京移住後（介護サービス利用後/サービス増加後）

	月	火	水	木	金	土	日
朝	朝食準備	朝食準備	朝食準備	朝食準備	朝食準備	朝食準備	朝食準備
昼	送迎 デイサービス	パーソナルトレーニング 外出 (送迎含む)	送迎 デイサービス	在宅	孫のインターナショナルスクール手伝い	在宅	在宅
夜	送迎 夕食準備 掃除	送迎 夕食準備 掃除	送迎 夕食準備 掃除	夕食準備 掃除	夕食準備 掃除	夕食準備 掃除	夕食準備 掃除

- ・ この他、新宿区提供の介護ヘルパー派遣サービスで知り合ったヘルパーと個人契約し、長女が外出/旅行の際などは見守りを依頼している
- ・ 長女宅の掃除サービスにきているスタッフに掃除をお願いしている
- ・ パーソナルトレーニングの講師は理解があり、送迎含め外出も付き合うこともある

支援ネットワークの変化



*本ページは、ケースごとに内容が異なるためタイトルを調整しています

3. 在宅継続要因

在宅継続を可能にする要因

暮らしの継続を促進するポイント

- ・ 近所に身内がいること
- ・ ADLの高さ（足腰がしっかりしている、排泄が自分でできる）
- ・ 家族との良好な関係
- ・ 長女の行動力
- ・ 本人・家族の経済力
- ・ 地域とのつながり

暮らしの継続を阻害するポイント

- ・ 家族との関係悪化、家族の引っ越し
- ・ 排泄・歩行機能の低下（長女・CMは現状在宅継続を希望、ともに施設住み替えへの限界点は排泄が一人でできなくなること、加えCMは歩行機能の低下により、自宅一人で移動できなくなると在宅継続は困難ではないかという考えあり）

できること

- ・ 朝食のパンをトースターで焼く
- ・ 着替え
- ・ 食事
- ・ デイサービスの準備
- ・ 布団を敷いて寝る
- ・ 予定の確認
- ・ 洋裁
- ・ 新聞を読む

できる要因

- ・ 服を出しておくことで着替えられる
- ・ 食事が目の前にあれば食べられる
- ・ 布団の場所が明らかにしている
- ・ カレンダーに予定を記入
- ・ 昔からの趣味
- ・ 視力の低下や理解力の低下はない

できるが周囲が心配すること

心配の要因

できるが本人が不安なこと

不安に拍車をかける要因

できないこと

- ・ 短期記憶がない、電話をしたことなどは覚えていない
- ・ お金の管理
- ・ 料理

手伝ってくれる人やサービス

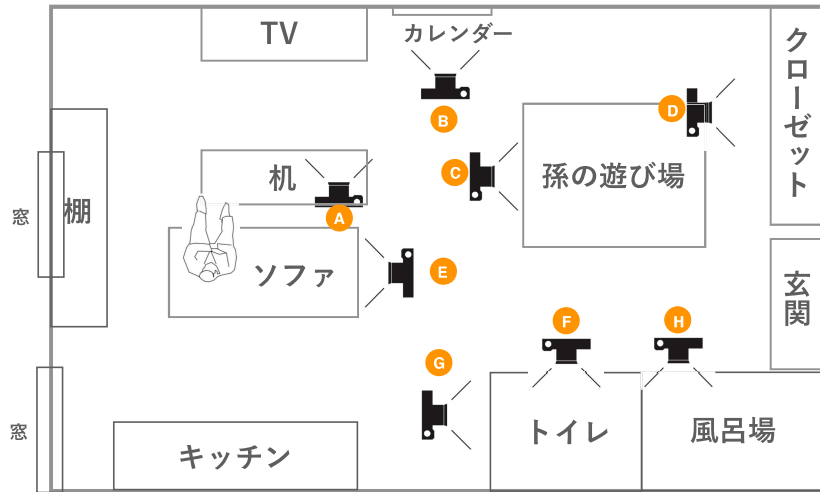
- ・ 予定はカレンダーに記入
- ・ 長女が管理
- ・ 食事は家族、サービス利用で準備

補足：

- ・ 本人はインタビューからは現状の生活に満足しているようにうかがえるが、東京移住前の生活への想いなどを現在の生活にも反映できているかは不明である

4. 暮らしの知恵や工夫

間取り



地域・隣人

- I** 長女訪問（毎日）

家族の工夫、サービス利用により生活が保たれている。主に物は出さずっぱなしにしておく、という工夫がなされている
- J** 個別契約ヘルパーによる掃除（本人外出時）

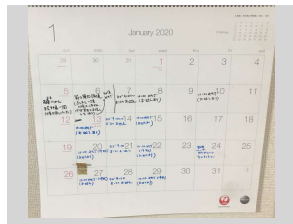
孫の遊び場やソファのスヌーピーなど家族の本人が寂しくないようにという工夫もみられる
キッチンには本人がパンをトースターで焼く程度しか使用していない
- K** デイサービス（週2）

本人以外による工夫



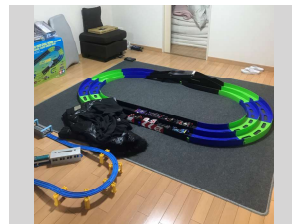
A 机の上の置物

文房具、お菓子、貴重品など箱ごとに分類し、本人の目の届くところへ出しておく



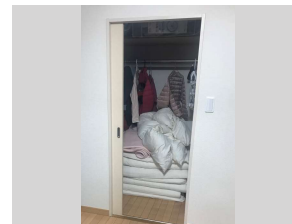
B カレンダー

予定を全て書き込んでおく



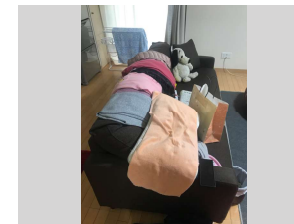
C 孫の遊び場

本人が孫のことを思い出したり、孤独感を感じないようにあえて片づけない



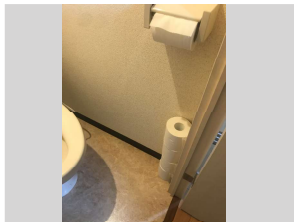
D クローゼット

布団、服の場所がわかるように、あえて扉はあけておく



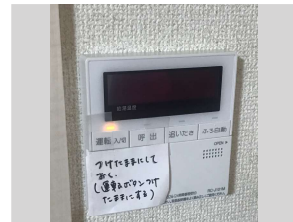
E ソファ

よく着る服はどこにいったか分からなくなるような、あえて出しておく。人形は、本人が好きなキャラクターで、少しでも和めるようにと、家族の思いで置いている。



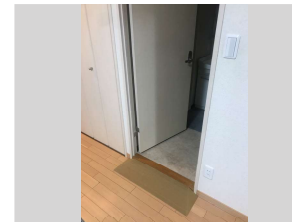
F トイレ

トイレットペーパーの替えもあえて出しおき、長女が補充



G お風呂場リモコン

誤って消さないように、メモを残している



H 転倒防止のスロープ

お風呂場への小さい段差でつまづかないようにスロープを設置